

東京キリストの教会 QT シリーズ
モーセシリーズ 7週目 11月16日～22日
申命記1～7章

<11月16日(月)> 主の命令と約束

申命記1：6～8、29～31

6 我々の神、主はホレブで仰せになった。「あなたたちは既に久しくこの山にとどまっている。7 向きを変えて出発し、アモリ人の山地に行き、更にその近隣地方、すなわちアラバ、山地、シェフェラ、ネゲブ、沿岸地方に行きなさい。更にカナン人の土地、レバノン山、大河ユーフラテスにまで行きなさい。8 見よ、わたしはあなたたちにこの土地を与える。」あなたたちは行って、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに、彼らとその子孫に与えると誓われた土地を取りなさい。

29 わたしはあなたたちに言った。「うろたえてはならない。彼らを恐れてはならない。30 あなたたちに先立って進まれる神、主御自身が、エジプトで、あなたたちの目の前でなされたと同じように、あなたたちのために戦われる。31 また荒れ野でも、あなたたちがこの所に来るまでたどった旅の間中も、あなたの神、主は父が子を背負うように、あなたを背負ってくださったのを見た。」

解説：

申命記は、モーセ五書の1つで、モーセによって、「葦の海の奇跡」をみていない世代のイスラエルの人々に向かって書かれました。漢語の「申」は、「繰り返す・重ねる・念を入れる」という意味があり、日本語にすると「繰り返された命令の書」という意味になります。次世代のイスラエルの人々は、自分たちはどこから来て、どこへ向かっているのか、神様が与えると言った土地、カナンの地で生きる目的は何か、を知る必要がありました。神様の命令と約束を信じる必要がありました。

質問/実践：

- ① 今日から、1週間が始まります。自分に約束の計画を持ち続け、闇から救い出してくださった神様に感謝と畏敬の思いを持って祈りましょう。
- ② どのような時も、神様は、私たちに先立って進まれる方です。また、難しいと感じる時も私たちに背負ってくださる神様です。職場で、学校で、家庭で、また、自分の小グループで、この聖句を思い出し、留まり、周りの人々を愛しましょう。

<11月17日(火)> モアブとアンモンを迂回する民

申命記 2 : 9、18~19

9 主はわたしに言われた。「モアブを敵とし、彼らに戦いを挑んではならない。わたしはその土地を領地としてあなたには与えない。アルの町は既にロトの子孫に領地として与えた。――

18 「あなたは、今日、モアブ領アルを通り、 02:19 アンモンの人々のいる所に近づくが、彼らを敵とし、彼らに戦いを挑んではならない。わたしはアンモンの人々の土地を領地としてあなたには与えない。それは既にロトの子孫に領地として与えた。」――

解説：

神様は、イスラエルの民が約束の地へと進んでいく際、モアブの土地とアンモンの土地に戦い挑んではならないといます。ロトは、アブラハムの甥であり、そのロトの子孫がモアブ人・アンモン人となったとされています（創世記 19 章 36～38）。イスラエルにとっては、親戚に当たる土地となります。これらの土地は、神様がロトの子孫へ与えたもので、それに対して敬意を払うように改めて伝えています。

質問/実践：

- ① ロトの子孫への神様が与えた土地は、主が守り、導いてくださります。神様の私たちの人生への計画も、神様が守り、導いてくださることを信頼する祈りの時間を取りましょう。
- ② 上記の聖句の通り、神様は、土地の境界線をはっきりと示されました。私たちは、自分の心に対して、責任を取っていますか。また、神様に委ねる部分の境界線が見えていますか。見えていないように感じるなら、健全に見えるように兄弟姉妹に助けをもらいましょう。

< 11月18日 (水) > 土地の割り当てと謙虚さ

申命記 3 : 15~20

15 わたしはマキルにはギレアドを与えた。16 ルベン人とガド人には、ギレアドからアルノン川までを与え、川の真ん中を南境とした。東はヤボク川がアンモンの人々との境界となり、17 ヨルダン川とアラバが西境となった。それはキネレト湖から、その東にピスガ山のすそ野が延びてきてアラバの海、すなわち塩の海に及ぶ。18 わたしはそのとき、あなたたちに命じた。「あなたたちの神、主はこの土地をあなたたちに与えて、それを得させてくださった。戦士たちは皆武装して、同胞イスラエルの人々の先頭に立って渡って行きなさい。19 ただし妻子と家畜は、わたしが既に与えた町々にとどめておきなさい。わたしはあ

なたたちが多くの家畜を持っているのを知っている。20 主があなたたちと同じく、これらの同胞に安住の地を与え、ヨルダン川の西側で彼らもあなたたちの神、主が与えられる土地を得るならば、あなたたちはわたしが既に与えた領地に帰ってよろしい。」

解説：

申命記3章では、イスラエルの進撃が続き、バジヤンの王オグとの戦いに勝利しました。このことはイスラエルの大きな成功として記憶に刻まれました（民数記32：33、ヨシュア記9：10、詩篇135：10-11、136：18-22）。その後、モーセはヨルダン川東岸の土地を割り当てます。マキルとは、マナセの半部族であり、残りはルベン人とガト人でした。既に土地を与えられた部族は、ヨルダン川を渡る時に、まだ土地を手に入れていない同胞のために武装し、誰よりも先頭に立つ責任をモーセから任されます。実際に、モーセの死後、ヨシュアのリーダーシップの下で、ヨルダン川を渡る時に先頭に立っていたのは彼らでした（ヨシュア記1：12-18）。ヨシュアは「主が彼らをも、あなたたちと同じように安らかに住まわせ、あなたたちの神、主が与える土地を、彼らも得られるようにしなさい」（1：15a）と呼びかけ、彼らは「我々は、御命令を行います。遣わされる所にはどこへでも参ります」（1：16）と謙虚に反応しました。

質問/実践：

- ① どの部族がどの場所を割り当てられたのか、地図を見て下さい。
- ② 私たちはこの部族のように、与えられたものに感謝して、神様と兄弟姉妹のために、どこでも行きます、何でもやります、という態度がある教会でしょうか。それとも自分が良ければそれで良いでしょうか。子供が救われた親、夫婦関係や親子関係やスキーマを助けてもらっている人、聖書勉強や友人が学び会などに参加している人は是非他の人が同じような経験をできるように尽力しましょう。全員が助けてもらい、全員が助ける健全な教会を目指しましょう。

<11月19日（木）> 自分自身に十分気をつける

申命記4：9、15-16、23

9 ただひたすら注意してあなた自身に十分気をつけ、目で見ただけを忘れず、生涯心から離すことなく、子や孫たちにも語り伝えなさい。

15 あなたたちは自らよく注意しなさい。 主がホレブで火の中から語られた日、あなたたちは何の形も見なかった。16 墮落して、自分のためにいかなる形の像も造ってはならない。

23 あなたたちは注意して、 あなたたちの神、主があなたたちと結ばれた契約を忘れず、あなたの神、主が禁じられたいかなる形の像も造らぬようにしなさい。

解説：

モーセがイスラエルの民に繰り返し強く警告しているのは、自分自身に注意することでした。自分自身に十分に気をつけられなくなる時、民が神様を忘れ、偶像礼拝することをわかっていたからでした。

Only be careful, and WATCH yourselves closely (9節)

Therefore WATCH yourselves very carefully (15節)

英語の表現だと、自分自身をよく気をつけて「見つめなさい」と書かれています。神様が十字架を通して私たちの人生に何をして下さったのか、神様から見たらどれほど私たちは罪人でありながら尊い存在なのか、を毎日覚える必要があります(10節は NIV だと、remember で始まります)。そして、それらを語り伝えていくことは忘れないためにも重要です。それらができなかった民は、モーセの警告にも拘わらず、偶像礼拝の罪に陥ってしまいます。

質問/実践：

- ① 今週中に自分を見つめる静かな時間を作りましょう。心に問いかけてみてください。神様との関係はどうですか。自分の状態はどうですか。心の奥深くにはどのような思いや気持ちがありますか。今年はどうのような一年でしたか。神様にとって自分はどのような存在だと感じますか。神様は自分をどのように導き贖ってくれましたか。
- ② 祈りの中で、自分が何者かを覚え、神様への感謝を捧げましょう。そして、機会があれば自分の人生を通して神様との体験を分かち合ってください。

< 11月20日(金) > 十戒と神様の想い

申命記5：28～29

28 あなたたちがわたしに語ったとき、主はその言葉を聞かれて、わたしに言われた。「この民があなたに語ったことを聞いたが、彼らの語ったことはすべてもっともである。29 どうか、彼らが生きている限りわたしを畏れ、わたしの戒めをことごとく守るこの心を持ち続け、彼らも、子孫もとこしえに幸いを得るように。

解説：

5章では、十戒が書かれています。民は火の中から語る神様の御前に立ち続けることで、死に晒されることを恐れ、モーセに聞いてもらい、教えてもらったことに全て従うと言いました。神様はそれを聞き、許しました。29節は、神様の民への感情が溢れ出ています。NIVだと、“Oh”、という感嘆詞から始まり、神様の変わることのない、民の幸福を望む深

い愛と純粋な憐れみの心が見出せます。このような神様の民への想いは、イエスのもっとも憐れみ深い描写と見事に一致しています。神様は私たちにも同様の想いを持ってくださっています。その証拠がイエスの十字架です。神様は私たちにもどのような人生を歩むことを望んでいるのでしょうか。

質問/実践：

- ① この聖句から、神様の御自分の民と私たちへのどのような想いと気持ちを感じられますか。どうして私たちは聖句に従う必要があるのでしょうか

< 11月21日 (土) > 主を忘れないよう

申命記6：10～12

10 あなたの神、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに対して、あなたに与えると誓われた土地にあなたを導き入れ、**あなたが自ら建てたのではない**、大きな美しい町々、11 **自ら満たしたのではない**、あらゆる財産で満ちた家、**自ら掘ったのではない**貯水池、**自ら植えたのではない**ぶどう畑とオリーブ畑を得、**食べて満足するとき**、12 **あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出された主を決して忘れないよう注意しなさい。**

解説：

6章では、シェマ (*shema*) と言われるトーラーの中でも中核的なメッセージが書かれているが、モーセは繰り返し警告をしています。モーセは、「自ら〇〇したわけではない」と強調して伝えています。しかし、ヨルダン川を渡った後、得て、食べて、満足し、主を忘れるようになってしまいます。主は約束を果たし、民に全てを備え、エジプトから民を救い出しましたが、満足する (*satisfied* : 満たされる) と、自分たちが何者だったのか、どこから来たのか、を簡単に忘れてしまいます。イスラエルにとって出エジプトは奴隷である状態からの救済 (贖い) であり、現代の私たちにはイエスの十字架による罪の奴隷からの救済・贖いを表しています。

質問/実践：

- ① バプテスマの写真を出し、じっくりと見つめましょう。
- ② 写真を見ながら、質問の答えを書いてください。バプテスマの前はどのような人生を送っていましたか。どのように人生を神様に変えてもらいましたか。どのような想いでバプテスマを受けましたか。これまでの人生で何を神様から与えられてきましたか。神様に満たされて、感謝し、栄光を返していますか。それとも、満たされて、主を忘れてしまいますか。

<11月22日(日)> 主の宝の民・私たちのアイデンティティ

申命記7：6～10

6 あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。7 主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。8 ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。9 あなたは知らねばならない。あなたの神、主が神であり、信頼すべき神であることを。この方は、御自分を愛し、その戒めを守る者には千代にわたって契約を守り、慈しみを注がれるが、10 御自分を否む者にはめいめいに報いて滅ぼされる。主は、御自分を否む者には、ためらうことなくめいめいに報いられる。

解説：

神様は、イスラエルの民が御自分にとって何者かを表現しています。注目すべきは、6節にあるように、主にとって彼らは「個人的な所有物（“his people”）」「宝のような価値（“his treasured possession”）」であったということです。地上でただ一つの民だけでした。新約聖書にも同様の表現があります。

- ・エフェソ1：14「わたしたちは贖われて神のものとなり（“God’s possession”）」
- ・テトス2：14「わたしたちを、、、贖い出し、、、御自分のものとして（“a people that are his very own”）」
- ・1ペテロ2：9「あなたがたは、、、神のものとなった民（“a people belonging to God”）」

どれほど神の民であることが特別かを感じることができます。しかし、その理由は彼らに（私たちに）あるわけではありませんでした（7節、申命記9：4-7）。唯一の理由は、神様の愛でした。そのためにエジプトから彼らを贖い出し、イエスの十字架により私たちが御自分の価値ある民にして下さいました。私たちにできることはそのように言うてくださる神様を信頼することです。契約を守るか、否むか、は当時の民、そして私たちに委ねられています。愛しているがゆえに、神様は私たちに選択すらも与えて下さっていることがわかります。

質問/実践：

- ① 神様にとってわたしたちは何者でしょうか。神様は私たちの状態や能力などに拘わら

ず、「私のもの」「私の価値ある宝」と言って下さいます。どのような時にそのような神様の言葉を受け取ることができますか。または、できないですか。

- ② 「私は神様のもの」「神様にとって宝のように価値がある」と祈って下さい。それこそが私たちの変わることのないアイデンティティです。それによって私たちは何度でも立ち上げる力をもらうことができます。